令和3年度 江戸川区立第三松江小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

・思いやりのある子
・すすんで学習する子
・仕事をやりぬく子
・体をきたえる子

目指す学校像
目指す児童像
目指す教師像

「子供の笑顔が輝きかられる楽しい学校」「製職員が教えることの書びに満ちた学校」「保護者・地域から信頼され受される学校」
「思いやりの心を大切にする子」「豊かに考え深めていく子」「責任されて最後まで取り組む子」「明る活発に運動に取り組む子」
「思いやりの心を大切にする子」「豊かに考え深めていく子」「責任されて最後まで取り組む子」「明る活発に運動に取り組む子」
「と成果>・出前授業を取り入れたり、ICT機器を活用したりする工夫を行い、児童の学習意欲を向上させることができた。
・いじめや不登校の未然防止に、校内外の教職員と連携を図り、効果が見られた。

「成果と課題

・学力面で個人差に対応した指導のさらなる工夫、充実が必要である。
・体カテストの結果を課題として取り組んだが、目標値達成まで至っていない。引き続き持久力、投力を高める運動を中心に、体力向上を目指していく。

教育委員会	E-60 元 口	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた
重点課題	取組項目				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	改善策
いきいきと学ぶ学 校づくり		習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・年35回の放課後補習教室の充実 ・小中合同での意見交換会実施。 連携プログラムの見直し。	・東京ベーシックドリルの診断 テストを全員合格	A		○放課後補習を計画通り実施 ●学力テストの結果から、今後の 指導改善に取り組む。	В	基礎的な内容の定着を確実にしてほしい。	特に学力に課題が見られる児童に対して、個別指導の時間を確保できるようにする。
		・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録 の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方 法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連 付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業 の充実	・全学年が調べ学習を取り入れた学習を展開する。 ・図書ボランティア、地域図書館との連携	・各学年の読書目標を90%達成 成 ・探究的な学習への意欲向上	A		○各学年、誘書に親しむ姿が見ら れた。さらに、調べたいことを見付 け、情報を収集してまとめていく力 を身に付けたい。	A	調べる学習コンクールを活用して読書科を充実してほしい。	読書科の指導計画に 基づいた各学年の実践 を全体で共有して、調 ベ学習の更なる充実を 図る。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊び など主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・わくわくタイムを年18回実施。・短、長縄跳び、マラソン週間の実施	・運動遊びを楽しむ児童の姿 ・体力テストの結果の向上	А	В	○運動会を通して、運動に親しむ 児童の姿が見られた。	А	運動会で児童の活躍が見られ た。	体力テストの結果を分析 し、工夫改善に取り組む。
	オリパラ教育の推進	・「オリンビック・パラリンビックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・オリパラ関連授業を年間35 時間実施。 ・オリパラコーナーを整備	・オリパラに関心をもち、すす んで活動に取り組む児童の姿	A	A	○オリンピック選手に触れて関心 が高まった。後半は、体験を中心 に各学年取り組む。	A	卒業生がオリンピックに出場し たため、地域が一体となって応 援できた。	「学校2020レガシー」を 引き続き実施できるよう に計画する。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・校内研修の充実・授業参観を計画的に行う。	・ほぼ全員が英語でコミュニ ケーションをとろうとしている。	А	А	●どの学級も共通理解のもと授業 が行えるよう、校内研修を充実させ	В	楽しく取り組んでほしい。	授業参観を計画的に行う。
	組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・アンケート、QUの計画的な実施、活用 ・スクールカウンセラー、外部機関との連携を図る。	・いじめの芽を摘み、100%解決させる。 ・不登校ゼロ	A		○一人一人の児童、保護者と連絡 を取り合い、少しでも登校につなが るように取り組んでいる。	В	下校時の行動や公園の遊び方 に課題が見られる。	家庭や地域の協力を得ながら、すぐに対処していく。
特別支援教育の 充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・ 支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に 応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・個に応じた指導に関する研 修を学期に1度は実施する。 ・エンカレッジルーム活用体制 を整備	・児童アンケートで、学級に居場所があると全員が感じている。 ・適切な支援を受け、満足して学級に帰る児童の姿	A	А	●個に応じた具体的な指導を、 様々な場面を例に学ぶ研修を行う。	А	特別支援教室への理解をさら に深めてほしい。	特別支援教室への理解が深まるように共通 理解のもと取り組んでいく。
		・同学年による特別支援学級と通常の学級との交 流及び学習の推進	・インクルーシブ委員会を毎月 実施	・有意義な交流ができたか。	А	А	○運動会や各活動で交流を行っている。	А	運動会で特別支援学級と通常 級が同じ競技に参加した。	通常学級と特別支援学級 の交流内容をさらに検討する。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた 研修	・ICTを活用した授業を実践 ・Teamsを活用した会議を実施	・すすんで学習タブレットを操作することができる。	Α	А	○全学年でタブレットを活用した授業を行っている。	A	オンラインで各家庭とつながる ように教員研修が進められてい	
	OJTの推進	・組織的なOJTによる授業改善	・OJT年間計画の確実な実施	・「研修体制が充実している」と いう教員80%以上	Α	А	○学ぶ側の希望を取りながらOJT を行っている。	A	研修に励む姿が見られる。	短時間でも確実に実施 できるように計画を立て る
	校内研究の充実	・国語科「読むこと」領域を中心にした研究の充実	・全学年が研究授業を行う。	・文章の読み取りの力を向上させる	А	А	○充実した研究となっている。●学力が向上したか検証したい。	А	研修に励む姿が見られる。	学力向上の検証に結 び付くようにする。
特色ある教育の展開	体験的な学習の推進	・本物に触れる体験を通した児童の興味、関心、 意欲の高まり	・学校応援団の協力、出前授 業を積極的に取り入れる。	・児童の興味や関心の高まり	А	В	○感染に気を付けて可能な限り体 験学習を行いたい。	В	地域の人材を活用してほしい。	可能な限り実施ができるように計画する。
	6年生全員参加のブラ スバンド	・一人一人の意思を尊重した教育活動の工夫	・年に2回、全校児童や保護者 を対象に発表会を開く。	・目標をもって練習に取り組むことができる。	А	A	○1回目、全校児童や保護者に披露することができた。	А	校庭で保護者に向けて発表す ることができた。	引き続き取り組む。